



# コミュニケーションの普遍性と個別性 —日本語の特徴はどのようなところにあるのか—



## 特別講演会

実施日: 2022年11月30日  
 実施場所: 群馬大学荒牧キャンパス 3号館 3階 GC301  
 リーダー: 情報学部情報学科1年 池田 悠将/共同教育学部英語専攻1年 星野 真彩  
 講演者: 群馬大学国際センター 副センター長 牧原 功先生

### 概要

特別講演会とは、GFL生が興味のある分野に精通する人や、リーダーとして世界で活躍する人を講演者として呼び、お話を伺うものである。

教育・情報GFL主催の講演会では、群馬大学 国際センター副センター長を務める牧原功先生より、「コミュニケーションの普遍性と個別性—日本語の特徴はどのようなところにあるのか—」と題し、ご講演いただいた。

教育・情報GFLでは、言語に対する関心が非常に強く、まずは私たちが普段使用する日本語について学ぶことにした。講演会にあたり、多くの学生に参加してもらうべく、広報ポスターを作成し広く周知した(図1)。

### 講演内容

#### 1) 日本語の暗黙のルール:協調の原理

初めに日本語の特徴についてグループワークを通して考えた。いくつかの会話の例を参考に、数人のグループになり、日本語の暗黙のルールを探した(図2)。日本語には次のような暗黙のルールが存在するという。

- ①必要な情報を必要なだけ提示する
- ②真実を述べる
- ③関連性のあることを述べる
- ④明瞭にわかりやすく述べる

これらのルールを専門的に置き換えたものが**協調の原理**である。協調の原理は次の4つの原則で成り立っている。

- ①**量の原則**: 発話に必要なだけの情報を盛り込むこと、必要以上の情報は盛り込まないこと
- ②**質の原則**: 真実であることを発話すること、虚偽だと思っていること・十分な証拠がないことは言わないこと
- ③**関連性の原則**: 関連性のあることを言うこと
- ④**様態の原則**: 明瞭な言い方をすること(不明瞭・多義的な表現を避ける、簡潔に順序よく言う)しかし、日本語の会話では協調の原理に沿わない場合もある。この方法により、相手への負担を減らすことができるのである。

#### 2) ポライトネスのルール:ポライトネスの原理

ポライトネス(丁寧さ)とは、円滑な人間関係を確立・維持するための言語行動のことである。再びグループになり、ポライトネスのルールについて考えた。**ポライトネスの原理**は次の6つの原則で成り立っている(図3)。

- ①**気配りの原則**: 他者の負担を最小にし、利益を最大にすること
- ②**寛大性の原則**: 自己の負担を最大にし、利益を最小にすること
- ③**是認の原則**: 他者への非難を最小にし、賞賛を最大にすること
- ④**謙遜の原則**: 自己への非難を最大にし、賞賛を最小にすること
- ⑤**一致の原則**: 他者との意見相違を最小にし、意見一致を最大にすること
- ⑥**共感の原則**: 他者との反感を最小にし、共感を最大にすること

#### 3) 言語の違いによるポライトネス戦略

言語によって、協調の原理とポライトネスの原理のどちらを優先するかが異なるという。日本語では、ポライトネスの原理を優先するのに対し、英語や中国語では協調の原理を優先する。日本語が「あいまい」と考えられる理由は、協調の原理よりもポライトネスの原理を優先することが多いためであるという。この違いを、アメリカ英語とイギリス英語の違いや、台湾での出来事を交えてお話しいただいた。また、ポライトネス理論には、フェイスの概念が存在する。聴者のネガティブフェイスに配慮したものを**ネガティブポライトネス戦略**(以降NPS)と呼び、一方、聴者のポジティブフェイスに配慮したものを**ポジティブポライトネス戦略**(以降PPS)と呼ぶ(図4)。NPSでは、曖昧化や敬意を表現することが多く、日本語の表現はNPSが多い。PPSでは、同感を誇張したり、協力を贈与したりすることが多く、英語や中国語の表現で多く見られる。言語によってポライトネス戦略も異なってくる。しかし、近年、日本語のPPS化が進みつつあり、私たちが日常的に使っている言葉がPPSであることを、具体例より実感することができた。

### 総括

本講演では、私たちが普段使っている日本語の暗黙のルールについて、日本語を客観的に考えることができた。また、言語間でのポライトネスの違いについて学ぶことができ、日本語の特徴、そして、言語という観点から外国との物事の考え方の違いを学ぶことができた。講演では、グループワークによりGFL生間で活発に議論が行われ、良い対人関係を築くためのコミュニケーションの仕方を知ることができた有意義な講演会となった。

### 謝辞

御多忙にも関わらず、ご講演くださった牧原先生をはじめ、講演会開催にあたり、準備の指導をしてくださった情報学部 井門亮先生、共同教育学部 大下達也先生、並びにGFL事務の方々に深く感謝申し上げます。



図1. 広報ポスター



図2. グループワークの様子

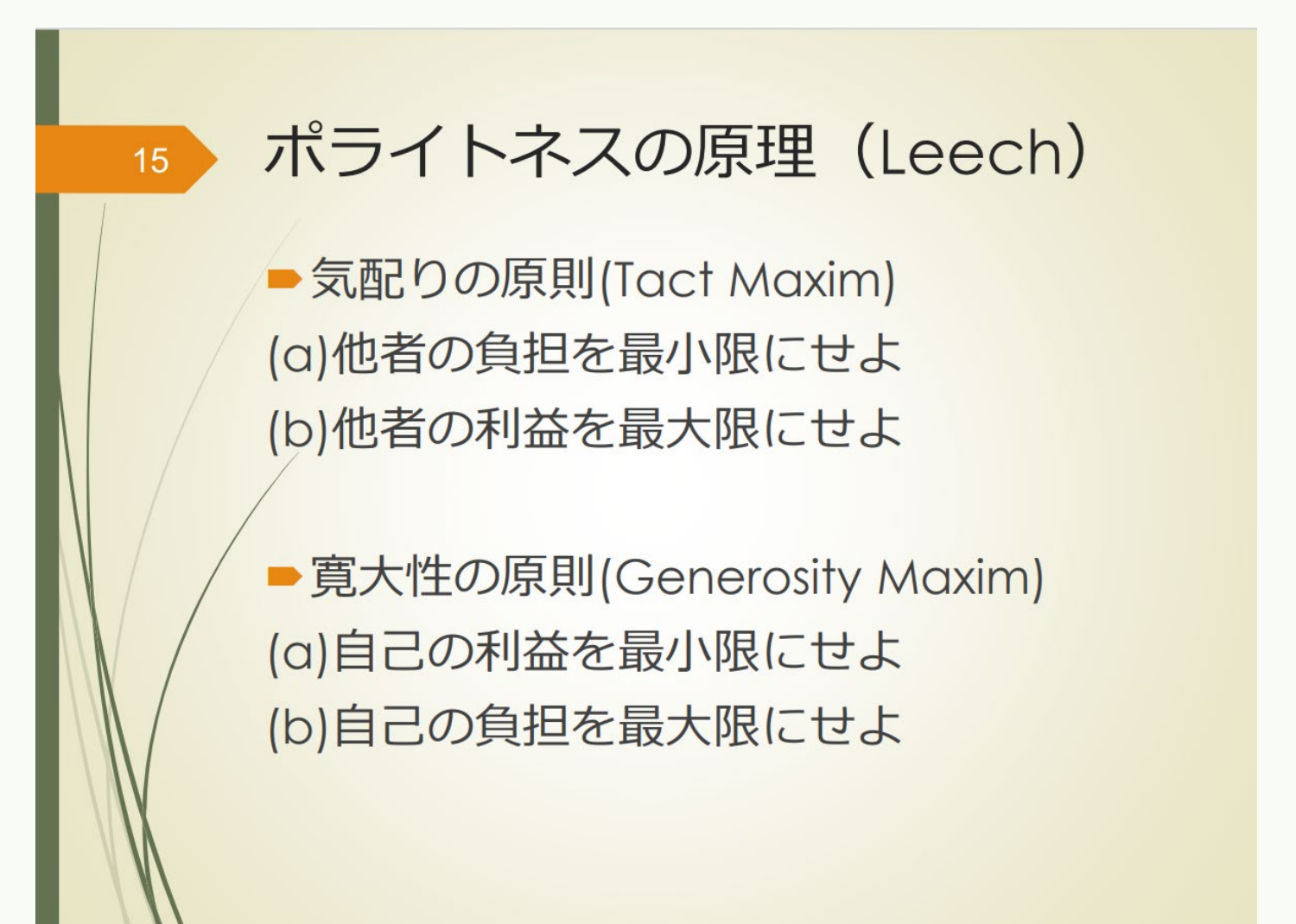


図3. 講演会スライド (ポライトネスの原理)

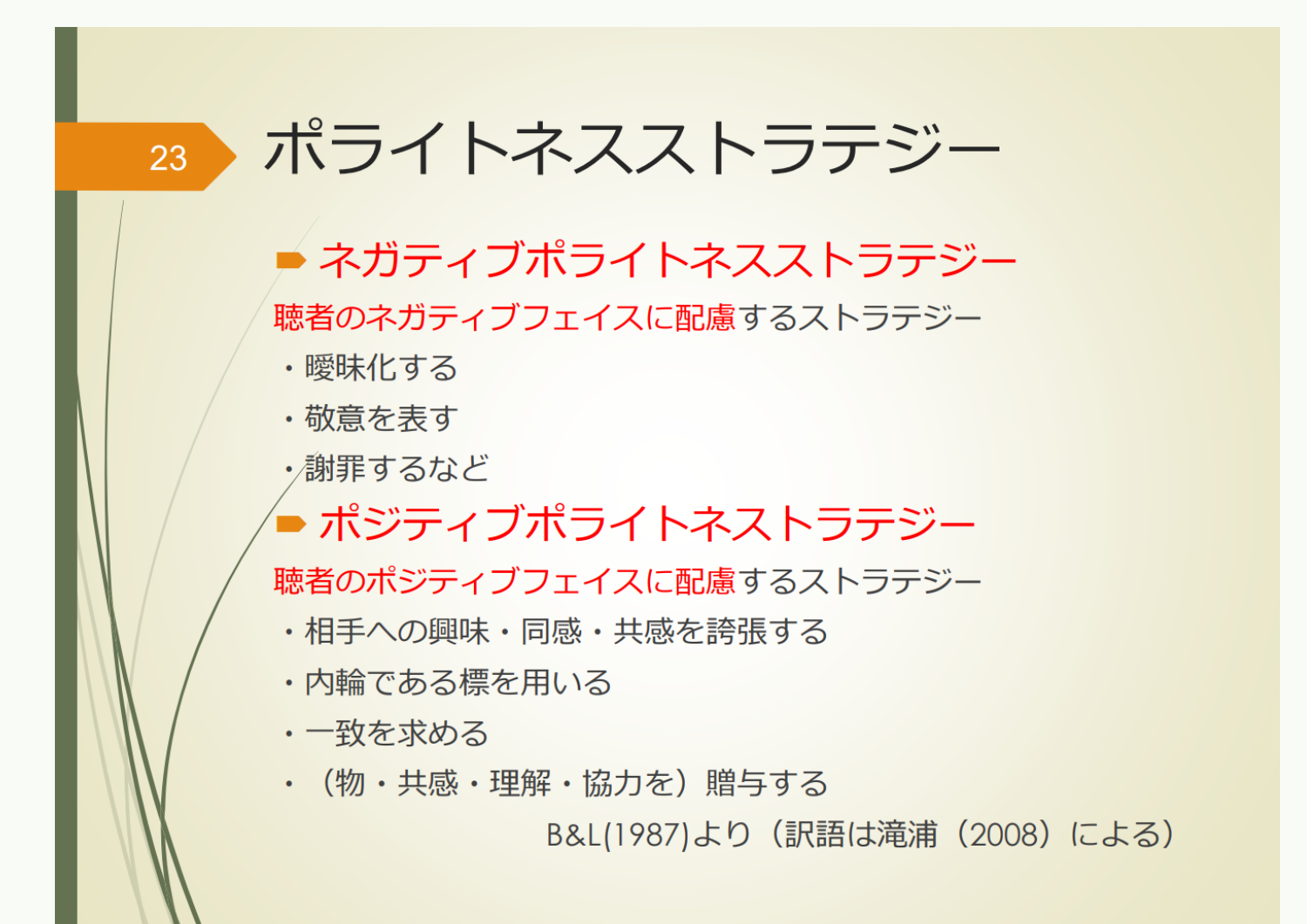


図4. 講演会スライド (ポライトネス戦略)